

## 「落語と私」 その参拾参

### 三代目 橘ノ百圓

トランプ大統領も新型コロナに感染するしまつ、只、流石トランプさん「これは、神が私に与えた試練である。」神様もこんな処で利用されるのですから大変ですネ。

俗に、友達が数人集った場所で、政治と宗教の話をしてはいけない、テな事も言われていますが、政治は、それぞれにそれぞれの支持政党が在りますから、迂闊な事は言えません。まして宗教となると、その信ずる心との対立ですから、血を見る事になりかねません。昔から宗教戦争は繰り返されていますから、現状を観ても解ると思います。只、落語の取り上げる宗教ですから、ほんの少し宗教を揶揄して笑い飛ばそうテエのが基本です。デッ！宗教が主題の噺は少ないですネ。

先ず、皆様ご存知の「菟菟問答」これは、禅家の噺で、仕草を観せる噺です。「野晒し」と共に、二代目林屋正蔵の作とされていて、千住で僧侶をしていた沢善が初代正蔵の養子となり沢善の正蔵、この噺が大阪に移って「餅屋問答」となりました。

「万金丹」は、旅先で路銀が無くなった食い詰め者2人が、住職の勧めで融通坊主になるが、何も知らない2人、住職が長旅の留守に葬儀と戒名を頼まれる。お経は“いろは”で誤魔化せるが、戒名となると…そこで寺に有った越中富山の万金丹の薬袋を持参して無理遣り戒名にする、奇想天外な噺、大阪根多で、三代目小さんが「鳥屋坊主」を東京に移したもので、今は余り演じ手がいません。

「甲府い」「法華長屋」「<sup>かじかざわ</sup>鰻沢」は日蓮宗の噺ですが「鰻沢」は名人圓朝の三題噺テエ事は前にも書きましたが、今は、林家正雀師匠が八代目正蔵(彦六の正蔵、稲荷町の師匠)から受継いで芝居仕立て終える事も在ります。鰻沢の急流を、筏がバラけて1本になった丸太に抱き付いて「南無妙法蓮華経、南無妙・・・」と唱えている処に、月の輪のお熊が送った鉄砲弾が肩を<sup>かす</sup>擦めて後の岩に「南無妙法蓮華経、アア1本のお材木(お題目)で助すかった」地口落ちですネ。この1本のお材木で、は「おせつ徳三郎」にも使われています。

「甲府い」は、身延から身一ツで出て来た男が浅草で財布をスラれ、縁在って豆腐屋に奉公テエ事になり、この豆腐屋の名物が胡麻入りガンモドキ、これが仕込みです。陰日向なく働くので豆腐屋夫婦が一人娘の婿にして、跡継ぎに。しばらくして婿になった伝吉が数日の休みを貰い身延山に大願成就のお礼参りに行きたいと頭を下げるので「気を付けて行って来なヨ」と送り出す。旅支度の夫婦を見た近所の人が「オヤ、ご夫婦揃ってどちらへ!？」と伝吉が「甲府い、お参り願ほどき」これは「豆腐イ胡麻入りガンモドキ」の仕込みの地口落ちです。



身延山妙法華院久遠寺

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

「法華長屋」は、日蓮宗の信者以外には長屋は貸さないと言う大家さんが起す騒動噺ですが、この噺も近頃は聴く事が無いですネ。この三ツは日蓮宗の噺ですが、お念仏の噺を三ツ紹介致します。

「後生鰻」「小言念仏」「宗論」この演題を見て落語好きな人は「どうも、お念仏は分が悪い」と思った事でしょう。お念仏ですから“南無阿弥陀仏”です。

ある<sup>たいけ</sup>大家の隠居が信心の帰りに鰻屋の前を通ると、今親方が俎の上の鰻に銚を刺す処。これを見たご隠居「これこれ何をするんだ!」「ヘイ、奥のおお客様のご注文で」「見てしまったものは仕方が無い、私にその鰻を売っておくれ」箆に入れて貰い、前の川へ持ってって「これからは決して人間に捕まるでは無いぞ、南無阿弥陀仏」と前の川へザブン「アア良い功德をした」こんな事を何ン日か繰り返していると、鰻屋の親方も味をしめて「ヘエ、近頃は鰻も時化<sup>しげ</sup>で、大分値が上ってるんですヨ」と高値で売る様になる。それでもご隠居は前の川へ持ってってザブン、「アア良い功德をした」このご隠居が風邪をこじらせて4、5日鰻屋の前を通らない、今日は鰻屋も入荷が無く店は休み、親方がボーッと表を、隠居の姿が見えたので、何か鰻の代りはないかとオカミさんを見ると、赤ン坊をあやしている処「オウ、その赤ン坊こっちへ寄越しなヨ」「何を言ってるんだヨ」「早くしろヨ、隠居が行っちゃうヨ」赤ン坊を受取り俎の上に「オイ何をしてる!」「ヘイ奥のおお客様のご注文で」「鬼の様な親だナ、私にその子を売っとくれ」「ヘエここん<sup>こ</sup>処、赤ン坊が時化で」「何を言ってる、人の命だ値は幾らでも良い」その子を受取ると「良いか、二度とあの様な親の元に生まれるでは無いぞ、南無阿弥陀仏」前の川へドブン「アア良い功德をした」ブラックの反対落ちです。これは隠居の錯誤によるもので、隠居さんは本当に良い功德をしたと思っているかも・・・!?以前、三代目小圓朝師が頻繁に高座に懸けてましたが、今は聴かなくなりました。軽くて滑稽味の在る良い噺ですので誰か復活してくれませんかネ。「後生鰻」でした。

次に「小言念仏」、昔の長屋には、こんな爺さんが居た様な気がします。毎朝ご仏壇の前でお勤め「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と唱えながら「オイ、仏壇の花がしおれてるぞ。南無阿弥陀、ほら、お線香立にどうしてマッチの軸を差すの!?お線香が立たないでしょ。南無阿弥陀。赤ン坊が這って来て妙な顔してるぞ、気を付けなヨ、バァー。南無阿弥陀、何イ朝のお付けの味は何ンにしましょう。表え泥鰻屋が通るから泥鰻にしな、南無阿弥陀、早く呼ばないと泥鰻屋が行っちゃうヨ、オーイ泥鰻屋、南無阿弥陀、泥鰻屋!南無阿弥陀、南無阿弥陀、泥鰻屋(仏壇に向っているのと泥鰻屋を呼ぶのが逆になる)ほら間違た、オイ泥鰻屋少し負けときなヨ、南無阿弥陀、何イだから生きた泥鰻を鍋に入れたら直ぐに蓋で押えるんだヨ、エエ死んだ「ざまァ見やがれ、南無阿弥陀・・・」これもブラックのとたん落です。この爺さんは何処となく憎めないですネ。この噺は小三治師匠が良く高座に懸けてました。若手も多くの人が演じます。



これが明治維新となり、キリスト教が公認されると、<sup>やそききょう</sup>耶蘇教対日本仏教の対立となります。

ある大店<sup>おおだな</sup>の旦那、代々熱心な浄土真宗の信者。ところが若旦那は<sup>けいけん</sup>敬虔なるクリスチャン。今日も教会にディオールと言う偉大な牧師（これが本当のクリスチャンディオール）が神の教えを説く為に訪れるとの事。朝早くから教会に出掛け、夕方に帰って来る始末。父親が「イエス様は、外の方にお任せをして、家には代々浄土真宗と言う有難いご宗旨が在るのです。何故、阿弥陀様を拜んでくれないんです」「お父様のお言葉ですが、私も今までは<sup>まこと</sup>真の神の在るのを知らず、お父様のごとく偶像物を信じたであります」「何んだ偶像物とは、罰当りめ（中略）お前のその天の神様テエのは、どこが有難いんだ!？」「我々の信ずる処の天の神は、我々の造り主であります」「お前馬鹿な事言っちゃいけませんヨ。お前はナ、私と死んだ婆さんと2人でこしらえたんだ。誰にも手伝ってもらった覚えは無い」「肉体をお造りになりましたのはご両親で在ります。しかしながら、知力、能力、魂をお造りになりましたのは、天の神様で在ります」「じゃあ何か？お前の五輪五体は、私と婆さんがこさえて、お前の魂は天の神様がこさえたテエのか!? じゃあ、私と婆さんと天の神様と三角関係か何ンかが在ったテエのか」「お父様興奮されては困ります（中略）サアお父様と一緒に讚美歌を歌いましょう」段々興奮して来た父親が息子に手を挙げる「お父様お遣りになりましたネ」と大喧嘩。これを見ていた飯炊きの<sup>ごんすけ</sup>権助が仲裁に入り「お2人共手を下ろしてくだせえ（中略）“宗論はどちら負けても釈迦の恥”テエます。お釈迦様の恥は阿弥陀様の恥、阿弥陀様の恥はお釈迦様の恥でごせえやす。今日の処は、この権助に免じて勘弁くだせえやし」「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。権助や良い事を言ってくれたナ“宗論はどちら負けても釈迦の恥、いやその教えを知らない訳じゃないが（中略）マアマア勘弁しておくれ。だけど権助や、お前もその教えを知っている<sup>とこ</sup>処をみると浄土真宗だナ!？」「あんでがす?」「いや、お前も真宗だろ」「何ァに、俺<sup>せんてえ</sup>ァ仙台だから奥州でがす」間抜け落ちですネ。先日寄席で若手が「何ァに俺ァオーストラリアだから豪州でがす」テエのを聴きましたが、これも在りかな。

今回は「落語と宗教」と題して書きましたが、何ンとなく纏りの無い文章になってしまいました。次回は又、何か考えます。今年も残り僅かです。皆様もお元気にお過してください。



大浦天主堂

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>